

税金に感謝

私は塾と公文に通っており、塾でお昼をとって、そのまま公文に行くという日が夏休み中多かった。いつもならお母さんが作ってくれたおにぎりなどを塾に持って行って食べるのだが、その日は家族みんな忙しく、私は塾に行く途中にあるコンビニに寄ってお昼を買うことになった。私は普段からコンビニに行く方ではないので、自分で選べるというのが少し嬉しかった。だが、時間が本当はないという現実を目の当たりにした私は、その嬉しさが一瞬で頭の中から消え去ってしまった。

コンビニに入り近くにあったドーナツを手に取り値段をチラッと見て、レジに向かった。私がお金を出して、ドーナツを取ろうとしたとき、店員さんに「あと八円持っていらっしやいますか。」と言われ、私は財布の中を探した。そう、私が見た値段は税込み価格ではなく税抜き価格だったのだ。財布の中から一円玉を見つけるのには少し苦勞したが、ギリギリ電車に間に合った。ギリギリになってしまったのは私が出発時間が遅かったというのもあったが、あの税金のお金を探している時間も関係したのではないかと思った。そんな私は電車の中で税金は本当に必要なのだろうかと思ってしまう。

そんな経緯があって私は税金の使われ方を調べてみることにした。すると、千葉県では税金は、商工費、教育費、民生費など私たちが安心して生活できるようにするために使われていることを知った。税金はなくてはならない存在だと思った。また、クリニックに行ったときに調剤の分のお金を払っていないことに気が付き、そのことについて調べてみると、調剤に税金が使われていることを知った。私は小さい頃、肌が弱く顔が真っ赤だった。何回も病院へ行き、薬をもらってしっかり治すことができた。また今でも薬を毎日飲んでいて、薬がなくなって飲まない日があると、全身がかゆみにおそわれ、よく眠れなかったり、集中できなくなってしまうことがある。そのときは本当に薬に支えられていると痛感する。税金がなかったら、ものすごい量のお金が必要で負担が多いのだろうと思った。みんなが納めてくれている税金があるからこそ、私たちは毎日健康な生活を送れるのだと実感した。

そして、私たちが毎日学校で勉強できること、安全に登下校できること、楽しく公園で遊べることなど当たり前だと思っていたことにも全て税金が関わっていると知って、税金に感謝しなければならないと思った。

コンビニで税金を払ったときには、こんな小さなお金が必要なのかと思っていたが、みんなが税金を納めると大きな力になって人を助けることができると思うと感心してしまった。税を納めることは直接ではないけれど、間接的に人の役に立つことだと思う。だから私は納税という形で、他の人を支えられるようになりたい。